

## 第26回 せんぽ医療感染講習会 開催報告

7月5日 午後7時から外来ホールで開催されました。講師はすっかりお馴染みになりました愛知医科大学大学院医学研究科臨床感染学主任教授の三嶋廣繁先生でした。三嶋先生は、



前回と内容が重複することがないように、テーマを変えてお話しいただいております。タイムリーな感染の話題をいつもわかりやすくまとめられ、とても勉強になるとご参加いただいたみなさまから好評をいただいております。今回のテーマは「アウトブレイク事例から学ぶ感染対策」の演題で今年にはいり先生ご自身が体験されたエピソードを中心にその時の事例をご紹介しますながらのお話でした。院外19名を含む98名の出席でした。



## TOPICS 地域医療連絡室のスタッフが増員されました

看護師 岡田順子、地域医療連絡室係長 中野智郎の2名が7月1日に着任しました。スタッフの増員により、各先生からの診察依頼や検査の紹介受け入れの拡大をはかれるほか、専門職が加わったことにより逆紹介の促進や在宅医療を担当している先生方に向けた各サービスの充実を積極的に進めてまいります。これからも当院は地域の中核病院として、より一層地域医療連携の強化を推進してまいります。今まで以上のご利用をスタッフ一同お待ち申し上げております。



### 岡田看護師 ご挨拶

7月1日付で地域医療連絡室に着任しました看護師の岡田順子と申します。6月までは病棟勤務をしておりました。地域医療につきましては未経験の分野となり不慣れなところがありますが、今まで培ってきた専門職としての知識や経験を生かし、地域の先生方、他職種の皆様へ信頼を得られるよう努力する所存です。

微力ではございますが、良質な医療・看護が提供できるよう地域医療機関との連携をより一層強めていきたいと思っております。なにとぞよろしくお願い致します。



### 中野係長 ご挨拶

地域の先生方にはいつも大変お世話になっております。7月より、地域医療連絡室に着任しました中野智郎(なかのとしお)と申します。着任前は関連の横浜船員保険病院の地域医療連絡室にありまして、立ち上げから10年間医療連携業務に携わっておりました。

ご存じの通り、医療連携には『人と人との繋がり』、『顔の見える連携』が必須です。前任地在職時には、より円滑な連携を目標に忌憚のないご意見・ご要望を頂戴するため、地域の先生方の元をたびたび訪問していました。怒られることや謝罪に行くことが多かったのですが、そのおかげで私も病院も育てていただきました。

当院でも同様に、地域の先生方と密接な連携を取らせていただきたいと考えておりますので、些細なことでも結構ですので先生方からの「声」を聞かせていただければと存じます。(お気軽にお呼び出してください。直通TEL: 03-3443-9576)

私一人では何もできませんが、地域医療連絡室スタッフや院内他部署スタッフに協力を仰ぎ、風通しの良い院内連携を構築しつつ、地域の先生方からの「声」にお応えできるよう努力していきたいと思っております。皆さまのご指導・ご協力をよろしくお願い致します。

## 編集後記



9月になり、今年もはやいもので3分の2が過ぎました。7月の選挙は大方の予想通りの結果でした。暑さは例年よりはやく7月初旬から本格化し、熱中症の患者が例年とは比較にならないほど増加したようです。7月中旬からは「ゲリラ豪雨」が局地的に猛威を振るい、まさに「過去に経験したことがない」降雨量により浸水・土砂崩れによる災害が続きました。天候の不順は野菜・穀物などの生育に影響を与え、価格の高騰を招き家計にも降りかかってきます。温暖化の影響でしょうか。いつもながら思うことですが、文明の進化に伴う環境への配慮は足りているのでしょうか。

夏休みも終わり秋です。9月は台風の季節ですが、願わくは上陸する過激な台風ではなく、列島を避ける並みの勢力のものでありますように祈るばかりです。

## Contents

「ローマは1日にしてならず」  
院長 与芝 真彰

News&News  
● 第26回 せんぽ医療感染講習会  
開催報告

ご紹介患者の症例報告  
第35回 眼科 部長 吉筋 正雄

活動紹介  
当院の院内感染防止対策について  
小児科部長・感染対策室長  
ICD 辻 祐一郎

TOPICS  
地域医療連絡室のスタッフが  
増員されました。

vol.48  
2013.9.1

せんぽだより  
うえーぶ  
Wave

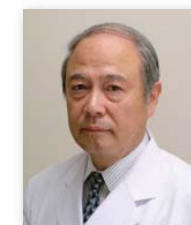
せんぽ  
東京高輪病院  
地域医療・支援センター  
地域医療連絡室  
〒108-8606 東京都港区高輪3丁目10番11号  
TEL: 03-3443-9576 FAX: 03-3443-9570  
http://www.sempos.or.jp/tokyo

## 病院理念

心のこもった医療を安全に提供します。

## 「ローマは一日にしてならず」

せんぽ東京高輪病院 院長 与芝 真彰



当院の外来食堂が新聞社、テレビ、雑誌などに大きく採り上げられています。元来当院の入院患者の食事はおいしいとの定評を得ていましたが、一方職員や外来者の食堂は外部業者に丸投げされていました。以前入院患者の昼食の検食と、業者が作成した職員や外来者用の昼食を比較する機会があったのですが、入院患者の食事の方がはるかに美味しいのには驚いてしまいました。

職員の昼食代は380円と比較的安価だったのですが、実は病院から170円補助が出ていましたし(計550円)、セルフサービスである事を考えると本来は600円位の値段になります。そう思って見るとメニューはバラエティーが少なくお粗末なものでした。主菜は2品あってどちらかを選択できるのですが、午後1時になると人気のある方のメニューがなくなってしまい、午前中の患者が多くて遅く迄働いている職員の不満の的でした。料理人の数も少なく、要するに手抜きだった訳です。職員達も不満も持っていたようですが、170円の補助が出ている事を知らなかった人も多く、外に食事に出る事もできないので我慢していたのです。それで私が業者を呼んで抗議した結果、野菜や小鉢が増えたりして多少は改善したのですが、それでもありきたりのメニューで余り健康に気を遣ったものではありませんでした。

そこで当院の誇るカリスマ栄養士の足立香代子先生に「職員の食事の面倒も見て下さい」と依頼しました。丁度その頃近隣のNTT東日本病院に例のタニタ食堂が進出してくる事になり、これに刺激されて足立先生

は「日本一おいしい病院食を目指す」というレシピ本を出版すると同時に職員食堂、外来者用食堂のメニューもそのレシピ本に合わせて一新させました。例えば最も売り物の健康定食では野菜150g以上、塩分3g台、カロリー500cal台となっています。また外来者には高血圧・糖尿病・腎臓病食などのメニューが選択できるようになりました。

最近国立循環器病センターや聖路加病院も同じようなレシピ本を出していますが、先鞭をつけたのが当院という事でマスコミの取材が多いようです。足立先生もテレビ出演も多くなりすっかり有名人になってしまいました。お陰様でせんぽ東京高輪病院の名前も全国に広まる結果になり、大変有難い事だと思っています。

当院の栄養管理室は長い間地道な、然し意欲的な努力を続けてきました。栄養管理室のNST(Nutritional Support Team)活動には全国から多くの担当者が研修に訪れています。今回の事は決して一時の幸運ではなく、これ迄のそうした努力があって今回注目される結果となったのだと思います。正に「ローマは1日にしてならず」です。各診療科もこのような栄養科のあり方を見習って日常活動を充実させて欲しいものです。

一方、毎日健康食を食べていると我が儘が出て、元の食堂にあったカツ丼、天丼、天ぷらソバ、カレーうどん、味噌ラーメンのような「不健康食」が恋しくなります。「白河の清き流れに棲みかねて元の田沼のにごり恋しき」。

第35回

ご紹介患者の  
症例報告 **眼科**

眼科  
部長 **吉筋 正雄**



いつも先生方には大変お世話になり、誠に有難うございます。今月は眼科よりご報告をさせていただきます。

**症例**

症例は、65歳男性です。平成25年1月23日、K眼科よりご紹介で、当科を救急受診しました。主訴は、右眼の霧視・眼痛・嘔気でした。

前年末にも、同症状の軽いものがあつたけれど、年末だったので眼科を受診せずに軽快したとのことでした。数日前より、症状の強いものが出現し、K眼科を受診したそうです。

視力：右0.01（矯正不能）、左1.0（矯正1.2）。眼圧：右極めて高く測定不能、左11mmHg。右眼の周辺前房は殆ど消失、中等度散瞳し、角膜は腫脹混濁し、結膜充血腫脹していました。左眼の前房も浅い状態でした。右眼閉塞隅角症急性発作と診断し、直ちに緊急入院とし、病棟にてグリセオール400mlおよびダイアモックス500mgの点滴静注を開始、右眼に2%サンピロ点眼15分毎点眼開始しました。

点滴が終了したところで、右眼圧30mmHg。右眼虹彩光凝固術を施行しました。虹彩に穴が開き、僅かに前房が出来てきました。2%サンピロ点眼・0.1%リンデロン点眼を3時間毎、ガチフロ点眼を1日4回、コソプト点眼を1日2回点眼としました。

1月25日、少しずつ前房が出来て、眼圧も落ち着いたため、当科を一旦退院としました。

1月29日、視力：右0.1（矯正0.2）、左0.9（矯正1.5）。眼圧：右6mmHg、左13mmHg。

依然、両眼共に前房浅く、右眼観血的手術および左眼虹彩光凝固術が必要と判断して、1月31日、当科再入院としました。

1月31日午後、術前点滴にグリセオール200ml使用後、右眼水晶体再建術（眼内レンズ挿入）＋隅角癒着解除術（ヒーロンV使用）を施行しました。術後経過は良好でした。2月5日に、左眼虹彩光凝固術を施行し、2月6日に退院しました。

その後の経過良好で、3月26日、視力：右0.9p（矯正1.2）、左1.2p（矯正1.5）。眼圧：右10mmHg、左12mmHg。コソプト点眼液、プロナック点眼液を右眼1日2回。状態が安定しましたので、ご紹介いただいたK眼科へ、逆紹介させていただきました。

今回の患者さんも、元々遠視気味で視力が良く、前房が浅めであり、白内障の進行に伴い閉塞隅角症発作が起こったと考えられます。「ホントは怖い白内障」「目の良かった人ほど、ご用心」と、声を大にして世間一般の方々にお伝えすることが、私どもの使命の一つだと痛感しました。いつも、ご紹介いただき、誠にありがとうございます。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

**お知らせとお願い 耳鼻咽喉科の診療体制が変わります**

8月にもお知らせいたしました。9月から耳鼻咽喉科は常勤医師1名体制となったため、手術治療が必要な症例はお受けできなくなりました。入院が必要なケースも症状によりお受けできないこともあり、ご紹介いただく先生方にはご迷惑をおかけすることとします。ご不明な場合は事前にお問い合わせいただければ幸甚に存じます。

なお、外来診療については引き続き行っておりますので、ご紹介くださるようお願いいたします。

先生方には大変ご不便でご迷惑をおかけいたしますが、事情ご賢察のうえご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

活動紹介

**当院の院内感染  
防止対策について**

小児科部長・感染対策室長  
ICD **辻 祐一郎**



平素より当院へ患者様をご紹介いただきまして誠にありがとうございます。小児科部長、感染対策室の室長を務めております辻です。今回は当院の院内感染防止対策について、感染対策室とICTの活動を紹介します。

**院内感染防止対策委員会・院内感染防止対策チーム（ICT）の活動紹介**

当院では年に数回「せんぼ医療感染講習会」を開催しております。皆様方のご参加をいただき、計26回を数えることが出来ました。毎回多数のご出席を賜りまして誠に有難うございます。

感染対策室の主な活動は、当院で発生する感染症に対して、すばやく対応し、感染症の治癒を早期に達成すること、感染拡大を防止すること、感染症に対する職員の理解、教育などです。定期的に院内を巡視しており、さらに感染症発生時には緊急ラウンドも実施しております。

また、当院では5つの近隣の病院との感染防止対策連携を行っております。これらの病院との感染対策に関する情報共有や相互の感染対策の状況確認などを行って、感染対策のレベルアップを図っております。この、連携カンファレンスには、感染対策に携わっている医師・看護師・臨床検査技師・薬剤師と事務職員が参加しております。昨年度は計12回のカンファレンスへ参加しました。



院内での活動は、感染対策カンファレンス及びラウンドについては、医師・看護師・臨床検査技師・薬剤師、事務職員を交え、感染対策リンクナースとの連携も交えて、開催しております。この場では、院内での懸案事項について話しあったり、耐性菌や季節性感染症等の患者さんをベッドサイドへ訪問したりしています。

今後も安心して当院へ患者様をご紹介頂けるように積極的なICT活動に取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

感染対策などにつきまして気軽にご相談ください

病院代表 ☎03-3443-9191にお電話いただき  
感染対策室 辻 (ICD) もしくは 担当クラーク 松本  
をご指定ください。

お知らせ

来る10月5日土曜日に、当院で定期的に開催しております市民公開講座にて、「インフルエンザ流行に備える」というテーマでお話をさせていただきます。是非ご参加ください。